

令和3年度
学校自己評価報告書

令和4年4月
東京歯科衛生専門学校

I 教育目標および教育方針

【教育目標】

- 確かな専門能力をもつ歯科衛生士
- 人々に信頼され、心を癒せる健康支援者
- 判断力、創造力、行動力をもつ歯科衛生士

上記の目標を目指し次の事柄を修得させることを本校の教育方針とする。

【教育方針】

- ① 医療倫理に基づいた寛容な人間観
- ② ライフステージに合わせた健康管理および地域歯科保健活動能力
- ③ 正確で安全な歯科医療を提供するために必要な知識と技術
- ④ 相手の立場にたったコミュニケーション能力
- ⑤ 生涯学習の必要性の理解

II 令和2年度 学校自己評価について

1、基本的な考え方

本校では、30年度より学校評価事業を開始いたしました。文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた評価項目について実施しました。また、学生アンケート集計結果も活用し、総合的に分析、評価しました。

自己評価を行うことにより、教職員全員の意識の向上はもとより、自己評価結果を基礎におき、更なる教育の資質向上に努めていきたいと考えます。

2、実施方法

- ① 「専修学校における学校評価ガイドライン」の評価項目を参考に、全教職員にアンケートを実施する。
- ② 3年生対象のアンケート（3年間の学校生活を振り返って）を実施する。
- ③ 教職員アンケートの集計結果及び学生アンケート結果を踏まえ、校内評価委員会を開催する。委員会構成は以下の通りです。
 - 委員長 校長
 - 委員 事務長、教務主任、広報部長、事務及び教務から各1名選出。
- ④ 学校関係者委員会の開催。
- ⑤ 評価結果の公開は、学校関係者委員会の報告書、必要に応じて諸資料を学校HPに掲載することにより行う。

3、自己評価の項目

以下の10項目について実施します。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

4、評価項目に対する評価

以下の基準で点数での評価を行う。

- | | |
|------------|-----------|
| 適切・・・4点 | ほぼ適切・・・3点 |
| やや不適切・・・2点 | 不適切・・・1点 |

2021年度 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 教育理念・目標

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2
・学校の理念・目的・育成人材像をもとに特色ある職業教育が行われているか	④	3	2	1
・社会経済ニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・将来構想などが学生に周知されているか	④	3	2	1

① 成果

・学校の理念・目的・育成人材像については、各学年の教授要項の1ページに掲載し、常に目の触れるところにと意識して実施している。

・1、3学年の歯科衛生士概論の授業の中で、育成人材像、将来像をイメージできるように現場で活躍する卒業生の歯科衛生士による講話を設定し、将来像を高めるための取り組みを前年同様取り組んだ。卒業生の生の声、アドバイスは学生に好評であった。

・教育理念・目的・育成人材像は定められていると考える。オープンキャンパスを通じても周知されていると感じ、それに共感して入学する者も多数いると思う。

② 課題

・学校の理念・目的に基づく人材育成を実践していく次世代の教職員を育成していくこと。

③ 今後の改善方策

・教育理念・目標は学校の基盤となるので、引き続き折に触れ何度も繰り返し伝える努力を継続する。

2) 学校運営

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・人事・給与に関する規定等は設備されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、又、有効に機能しているか	4	③	2	1
・組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	④	3	2	1
・教務・事務等の組織整備など意思決定システム(会議等)が制度化されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切にされているか	4	③	2	1
・業務効率化を図るシステム化がなされているか	④	3	2	1

① 成果

・業務改革プロジェクトチームの立ち上げ

・教員の業務削減のため、国家試験対策DHACSを導入できた。

・教員の業務削減のために昨年1名だった非常勤の教員をもう1名増し対策を行えた。(これができたのも在籍数の確保があったから)

② 課題

・オンライン講義資料配布方法の改善

・業務改革プロジェクトの活性化

・業務効率化にはまだ十分なシステム化が図れていないと思う。

・紙の電子化の継続検討

③ 今後の改善方策

・本校での学習に必要なソフトを予めインストールした学生全員共通のデバイスを持たせることにより、オンライン授業の効率化、資料配布方法の合理化(電子配布)学修の効率化を図る。今後も続くであろうオンライン授業における教職員の負担軽減、業務改善にもつながる。

・分掌業務の見直し(教員がやるべき内容とそうでないものとの区別化)区別された業務を担っていただける人材の確保

・効率的に業務を進めるためにも今までのやり方に拘らず、だれが担当してもわかるようにシステム化を進める必要があるが、それには時間の確保が必要である。

- ・アナログ部分の改善・紙の消費量を減らす電子化
- ・学生掲示板の電子化等合理的でわかりやすい情報伝達と運営

3)教育活動

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、、不適切・・・1			
	4	3	2	1
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念を踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・カリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等の連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における最先端知識・技術等を習得するための研修や教員の資質向上のための取り組みが行われているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①成果

- ・カリキュラム・教育手法改善プロジェクトチームの立ち上げ
- ・臨地実習の補完として関連分野の専門家を複数招いての講義を実施できた。
- ・昨年の課題となっていた、包括授業期末試験の実施。
- ・実力試験のあり方を検証し時期の変更を実施した。

②課題

- ・審美歯科、訪問歯科、インプラントなど新しい専門分野の知識や経験値の高い人材の採用、実習先の更なる確保。
- ・学則や校内ルール、実習ノートの在り方などが時代の流れやニーズに適合しているかどうかの検証
- ・主要3科においては到達点で実技が進むと思うので、3科のコラボのような形で進められると実技の内容がスムーズにいくのではないかと感じる。
- ・科目の単位ではなく卒業試験を取り入れるべきだと思う。

③今後の改善方策

- ・非常勤でもよいので、新しい専門分野に関する講義を行う講師を採用し、卒業生がどんな就職先でも困らないように就職先の選択肢を広げるような幅広い基礎知識を身に付けてもらう。
- ・法人が開設するサテライトクリニックでの高度な専門分野の実習。
- ・改革プロジェクトチームによる学則や校内ルール、実習ノートの在り方等、学生生活全般にかかわるルールの検証と改編への取り組み
- ・定期試験、再試験、実力試験のあり方、方法、時期等を更に検討し学生の意識を高める指導が必要。
- ・寺子屋の教育指導の更なる充実を図る。

4)学修成果

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、、不適切・・・1			
	4	3	2	1
・就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	4	3	2	1

①成果

- ・寺子屋での国試対策
- ・卒業生による「卒後のキャリアアップ」講話の実施
- ・それぞれの教員が学生への声掛けや面談、また寺子屋教育も含め積極的に行っている。それが退学率低減に繋がっている。
- ・国試対策ソフトDHACSの導入

②課題

- ・資格取得率の向上
- ・卒業後の動向は一部の人に偏っている傾向があり、同窓会との連携が必要である。今年もコロナ禍の中で連携が稀薄になってしまった。連携について模索が必要である。
- ・カリキュラムを改編し、3年生が早期から国試対策を取り組めるようにし、退学率を軽減し入学者の資格取得率を上げる。

③今後の改善方策

- ・国試の難易度が上がっている中、傾向と対策を強化し1年次からの対策を強める。
- ・全員共通のタブレット端末と本館でのフリーwifiを導入すれば、オンライン講義や動画、DHACSの活用がしやすくなり、学習効果や資格取得率の向上につながる。
- ・定期試験から再試まで十分な時期がとれるようなカリキュラムや学則を見直し、1, 2年生のうちに十分な学力を身につけて進級率をあげ、3年生は早期から国試対策に取り組めるようにする。
- ・国試が年々難しくなっているので、傾向を分析したり「臨床科目・主要3科」を直接指導できる国試対策に精通した教員の配置。
- ・同窓会で確認している卒業生の活動について、教職員間で共有する。(わかりやすくできるとよい)

5) 学生支援

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	4	3	2	1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生への生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	3	2	1

①成果

- ・求人票閲覧のWeb化で、学生、教員双方に利点があった。
- ・高等教育就学支援制度の対象者が増加し、経済的支援を継続している。
- ・ハローワークの教育訓練給付金の対象講座として再指定され、今後の社会人入学生の支援を継続することができる。
- ・高校ガイダンスへの参加が増え、高校生への職業教育に繋がった。
- ・法人の健康管理室との連携により、コロナ感染予防対策を強化し、アドバイスを取り入れることができた。また職域ワクチン接種の提供により、早期の教職員・学生の安全確保に繋がった。
- ・コロナの感染予防対策を徹底し学生の安全を図りながら授業を実施し続けることができた。
- ・コロナ関連で授業に出れない学生もいたが、オンラインの活用により何とか安全に授業を実施することができた。
- ・保護者への各学期ごとの成績表の送付、必要に応じての電話連絡等担任との連携を取れるようにしている。また3年生の保護者には、必要に応じ国試の取り組みに必要な情報を提供しサポートのお願いをした。

②課題

- ・学校HPで医科歯科連携で開催される研修を紹介したが、コロナ禍の現状で同窓会が動いていない現状がある。
- ・既卒生の国試合格に向け、学校としては寺子屋その他の支援体制をとったが、本人の来校を促すことが難しかった。

③今後の改善方策

- ・藤紫会役員の意味を尊重しつつ、必要あれば教職員でサポートできるように努める。
- ・専門のキャリアカウンセラーの配置(昨年に引き続き)の検討。
- ・既卒生の国試不合格者への対応の検討、学校としての対応の統一化。
- ・コロナ禍により法人による就職ガイダンスはできなかったが、収束後に再開できるとよい。

6) 教育環境

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
	4	3	2	1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1

・学内外での実習施設、インターンシップ、海外研修等についての教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①成果

- ・昨年度まで課題となっていた相互実習室のユニットの更新が実現できた。
- ・実習効果を向上させるために実習用カメラとモニターを導入し、教育効果を高
- ・実習室の滅菌器を更新、コロナ対応用に医療用空気洗浄機を導入することができた。
- ・防災ヘルメットの購入を継続し、コロナ禍の中でもできる限りの避難訓練を実施できた。

②課題

- ・都内で学生が通える場所に法人が実習施設としてのクリニックを開設することが望まれる。
- ・今後wifi環境が必要になってくる可能性もあるので、各教室にwifiを導入する。
- ・教室内プロジェクターの機能充進の検討

③今後の改善方策

- ・3階トイレの改修工事。
- ・法人が都内にサテライトクリニックを開設すれば、本校学生が安心して実習できる。
- ・海外研修についてはコロナ収束後に検討する。

7) 学生の受入れ募集

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学生募集活動は、適切に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①成果

- ・4年連続での定員充足ができています。
- ・早期の充足により、教職員の業務削減にも繋がっている。
- ・次年度の定員が早期に充足したことはとても素晴らしいことであり、広報担当者をはじめ教職員が一団となり取り組んだ成果であると感じる。
- ・オープンキャンパスの教職員の対応は好評を得、募集活動に貢献した。
- ・昨年に引き続き、コロナ禍におけるオンラインでの募集活動も広め効果を得た。
- ・若者(高校生)をターゲットとしたSNS戦略を取り入れ、好評を得ている。(フォロワー数のアップ)
- ・本校の教育方針を伝えるガイダンスに昨年以上に参加でき、TDH教育を広められ、高校との接触を強化できた。
- ・高校との繋がりが強化され、目標としている指定校推薦入学者が増加した。(昨年度の課題となっていた部分)
- ・AO入試において適性検査を導入し、入学生の特徴を早期から把握できるようになった。
- ・昨年度の課題として挙げた早い時期での充足を実現することができた。
- ・学納金は比較的安い方の学校であり妥当か。ユニットを更新したが学費を上げることなく運営することができた。
- ・HPのリニューアルを行い、見やすいテキストにすることができた。

②課題

- ・年々国家試験の難易度が上がってきており、国家試験合格には基礎学力の有無も大きくかかわっているように感じる。今後は基礎学力、意識の高い学生の人数を増やして定員充足を目指したい。
- ・更に歯科衛生士の良さを伝え、意欲のある学生の入学に繋げ、入学生を選抜できるようにする。
- ・指定校推薦入学者をさらに増やし、入学生の学力レベルアップをする。

③今後の改善方策

- ・指定校推薦での入学者を増やすため、高校への広報活動をより活発にしパイプを強化する。そのためにも、丁寧な真面目な指導を行う教育面での成果を教務全体でも意識していく必要がある。
- ・学費が他校に比べ比較的安いことを利用し、入学金の減額を廃止し、その分で共通のタブレットPCを購入してもらうのはどうか。eラーニングの導入がしやすく、それにより学習効果が上がれば他校との差別化、学校のアピールにも繋がり、学生募集においても良い影響があるのではないかと。

8) 財務

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、、不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	④	3	2	1

①成果

- ・4年連続しての入学定員充足と休退学者減少による学生在籍数の増加、及び法人変更の好影響により、学校の財務基盤は更に安定し、今年度も経常収支は黒字決算の予定。
- ・ユニット更新も予定より1年前倒して実施することができた。
- ・今年度のユニット更新は予定外の支出であったが、法人変更以降の収支は黒字であり、今後も必要に応じて学生の教育環境を整えるための設備投資が継続できる予定。
- ・財務の安定により、教育に関わる教材、設備等の導入も、教員の要望にできる限り対応することが可能となった。

②課題

③今後の改善方策

- ・入学者定員充足を今後も継続し、退学防止に努め現在の在籍数を維持していけば財政基盤は更に安定する。

9)法令等の遵守

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、、不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①成果

- ・学校自己評価及び学校関係者評価報告書を今年度も継続公開している。
- ・専修学校設置基準及び養成所ガイドラインを遵守した運営を継続している。
- ・教職員の自己評価において課題や改善策を提起するように促している。
- ・問題点の改善(ユニット改修、包括授業期末試験の実施、国試対策ソフトの導入など)に取り組んでいる。
- ・広報等で使用する承諾書を全学年取得した。

②課題

③今後の改善方策

10)社会貢献・地域貢献

評価項目の達成及び取り組み状況	適切・・・4、ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2、、不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座等の受託を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①成果

- ・コロナ禍で、社会、地域との交流は控えている。
- ・臨地実習を通じて積極的にかかわれていると思う。

②課題

- ・各学会の学生ボランティア活動の周知を拡げる。
- ・外部団体に対する社会貢献の強化。(コロナ収束後)

③今後の改善方策

- ・コロナ収束後、もっと地域にアピールするためにイベント、社会貢献活動を再開していく。
- ・各学会の学生ボランティア活動の周知をさらに強めていく。積極的にアピールしていく必要がある。
- ・オンラインや人数制限をしてキッズイベントなど慎重に検討して、可能であれば開催してはどうか。